HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創意と技
Author(s)	諏訪, 正明
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 11
Issue Date	2004-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35456
Type	departmental bulletin paper
File Information	11_hajimeni.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

創意と技

農学研究科技術部長　諏訪正明

科学は芸術であるとも言われます。様々な現象もその原理がわかればなるほどと思い、その妙に感嘆もします。その感動が芸術と相通ずるのでしょう。そもそもこの世のすべての現象は神の御技、つまりアートということだったのかも知れません。そして科学は善なるものとして探求され、人間社会は変貌を重ねてきました。しかし、科学技術の発達が即人類の未来につながると素朴に信じた時代はとうに過ぎ去りました。人間倫理の確立がなければむしろ危険極まりないことに人類自身が気づいております。人と人との関係においても、環境との関係においても然りであります。酸性雨に弱い樹種が森や林を作っていなければ私たちの生存もおぼつかないのです。一生物種であるヒトが地球という閉鎖系で生き生きと暮らし続けるためにはどうすればよいのか、叡智があるとすればその叡智が試されているのでしょう。森羅万象に謙虚な心持ちで向き合うことが求められます。

当面の需要を満たすために奮闘してきた人類は今、地球の現状に愕然としております。「循環型社会」、「持続可能な開発」が喫緊の課題となりました。再生産資源である生物の生産と利用に直接的に関わる農業、農学に寄せられる期待はとくに大きなものがあります。農学研究科ではこれまでも基礎から応用までを考究してきましたが、今日的負託に応えるためにさらなる創意工夫が必要となっております。新たな着想を具体化するためには多くの試行錯誤がなされます。その過程では新たな技術の展開が必要となります。これまで以上に技術者への期待が高まります。法人化後の大学における技術者、技術部の在り方が真剣に議論されねばなりません。一層の存在感を示していく必要があるでしょう。